



ヨコトリツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!

VOL.7
AUG.2014

ヨコハマトリエナーレ2014開幕!



「ヨコトリツ! (Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「ハマトリツ!」による手作りのフリーペーパーです。「トリツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat!」(「トリック オアトリート!」=お菓子をくれなきゃイタズラするぞ!)から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

ヨコハマトリエナーレ2014「華氏451の芸術・世界の中心には忘却の海がある」

会期: 2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) | 主会場: 横浜美術館、新港ピア (新港ふ頭展示施設)
アーティストック・ディレクター: 森村泰昌
ヨコハマトリエナーレ2014公式WEBサイト <http://www.yokohamatriennale.jp/>



みごとじに開幕、しかしこれからが正念場!

「このままではいけないヨコトリツ2014に仕上がりました。ぜひお越し下さい」自分で言うことではないのかもしれないが、そのように声を大にして呼びかけた今の心境である。

8月1日、初日の午前、子供客がたくさん来場するなか、グラントギャラリーに設置されたマイケルランディ作の巨大な作品「アートピン」に、失敗作を持ち寄って投票するというセレモニーが行われ、おおいに盛り上がった。日比野克彦さんや椿昇さん、それに松井冬子さんらが、高さ7メートルはあるかという階段をのぼり、作品の投票に参加してくださった。

オープニングに先立ち7月31日には、特別内覧会とセレクションパーティがあった。嬉しいことに、今年のヨコハマトリエナーレは最高にすばらしいと、国内外の何人もゲストから声をかけら

れた。妥協せずブレない姿勢を買いたのがよかったのだと思う。始めは記者会見で「なんだか難しそうな内容ですね」と不満の声も密席からあがっていたが、そうではないと「このこともや」と理解されたのではないだろうか。大事なことを語る、それが「難解」になるかという点、決してそうではないという点、これはぜひ体感していただきたい。ともかく、ヨコトリツの夏はこのころ順調に出版したようである。よかった。

でも問題は言うまでもなく、これからである。9月10月と、今のテンションを持続させていかなければならない。といわけでサポーターの皆さん、どうかさらなるパワーでヨコトリを推進させるべく、引き続きの協力、よろしくお願いたします。11月3日のエンディングまで気を抜かず、私も頑張ります。

Morimura Yasumasa

森村泰昌



©Morimura Yasumasa + ROJIAN

【森村泰昌 プロフィール】1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。1985年、ゴッホの自画像に扮したセルフポートレイト写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人たちなどに扮した写真や映像作品を制作している。ヨコハマトリエナーレ2014アーティストック・ディレクター。

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリツ!」VOL.7 ●企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター ハマトリツ! フリベチーム(糸屋泰士/入江暢子/上田良寛/江藤真央/大澤歩/梶原千春/齊藤照子/田所望/田中久美子/林田将来/本間智子/深野一穂/山田崇之) ●カバー作品: 大竹伸朗「網膜屋/記憶通過小屋」(部分) ●カバーフォト: 入江暢子 ●紙面デザイン: 山田崇之 ●発行日2014年8月21日 ●発行元: お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局[横浜市中区日ノ出町2-15B 黄金町エリアマネジメントセンター内] TEL: 045-325-8654 ●横浜トリエンナーレサポーター公式WEBサイト <http://www.yokotorisup.com>

次号予告 アーティストインタビュー&躍動するサポーター 9月中旬発行予定! 購子に乗って次号もカラーです。

Hama-Treats! Event Calendar

*イベントの開催日時・場所・内容は予告なく変更される場合があります。最新情報はハマトリツ!ウェブサイト、またはヨコトリ公式ウェブサイトにてご確認ください。



座学講座などのヨコハマトリエナーレ2014をより深く知るためのプログラムです。

和田昌宏を解剖する (全3回予定)

ヨコハマトリエナーレ2014 出品作家である和田昌宏さんと生で徹底的に向き合ってみませんか? 和田さんご本人による過去作品の上映をしながら、アーティストとしての思い入れなどを語っていただきます。

●Vol.2 たったひとりで世界と格闘する

日時: 8/30(土) 15:00~17:00

場所: 横浜美術館アートギャラリー1

定員: 30名

登壇者: 和田昌宏(ヨコハマトリエナーレ2014出品作家) 庄司尚子(ヨコハマトリエナーレ2014コーディネーター)

申込: ハマトリツ!ウェブサイトよりお申込みください。

参加費: 無料(参加にはヨコトリ2014当日有効なチケットが必要です)

しばいたるか現代アート (全5回予定)

横浜美術館首席学芸員の天野太郎さんによる、アートコラムです。顔のみえる距離で、天野さんのお話を味わえる! 裏話も聞けるかも?

●Vol.1 世界に対して物申す!

日時: 8/29(金) 19:00~21:00

場所: 日ノ出町 日ノ出スタジオ

横浜市中区日ノ出町2-145先

●Vol.2 おいおい、中心ってなんやねん

日時: 9/12(金) 19:00~21:00

場所: 黄金町 高架下スタジオ Site-D 集会場

横浜市中区黄金町1-2番地先

(Vol.1・2とも)

定員: 30名

登壇者: 天野太郎(ヨコハマトリエナーレ2014キュレリアルヘッド) ヨコトリキュレーションチーム

申込: ハマトリツ!ウェブサイトよりお申込みください。

参加費: 無料(参加にはヨコトリ2014当日有効なチケットが必要です)

《今後の開催予定》

Vol.3 「あかん忘却(わす)れさせて」

9/26(金) 19:00~

Vol.4 「海とアート、深いのどちやろ?(仮)」

10/10(金) 19:00~

Vol.5 「ごっつきたいな芸術」

10/24日(金) 19:00~

LOGBOOK

遊んで作るのワークショップ

*LOGBOOK:市原幹也(演出家)と野村政之(ドラマツルク/演劇作家)が共同開発したプロジェクトです。
<http://logbookinfo.tumblr.com/>

LOGBOOK 遊んで作るのワークショップ

LOGBOOKは、まちを海に見立て、その海を航海したあなたの「航海日誌; logbook」をつくり、それを誰かと交換して遊ぶアートプロジェクトです。いつもと違う視点でまちを歩き、自分の発見したまちの魅力からオリジナル「logbook; 航海日誌」作りに挑戦します。

●第1回

日時: 8/24(日) ①13:00~15:00/②15:30~17:30

場所: 横浜美術館 アートギャラリー2

●第2回

日時: 8/31(日) ①13:00~15:00/②15:30~17:30

場所: 演劇センターF

横浜市中区初音町2-43-6 Kogane-X Lab.

●第3回

日時: 9/14(日) ①13:00~15:00/②15:30~17:30

場所: 横浜美術館 アートギャラリー2

(第1~3回とも)

定員: 各回15名(定員に達し次第、受付終了いたします)

申込: ハマトリツ!ウェブサイトより事前申込、または当日ワークショップ会場に直接ご来場ください。

ハマトリツ! (ウラ)おもてなしプロジェクト 会員限定 【水戸芸サポーター×ハマトリツ!】

ヨコトリ2014を通して新たな人とのつながりを目指すべく、様々なアートイベントに関わっている団体とのコラボ企画。第一弾は水戸芸術館サポーターのみなさんと交流します! 水戸芸術館サポーターのみなさんをハマトリツ!のみんなでもてなしましょう!

日時: 8/31(日)

参加費: 2,000円

(その他各自交通費、ツアー同行の方のみチケット代)

イベントのお申し込みは……

横浜トリエンナーレサポーター “Hama-Treats!” 公式WEBサイト

<http://www.yokotorisup.com>

ヨコハマトリエナーレ 2014 本展イベント情報

オリジナルスタンプを作ってヨコトリ2014を盛り上げよう!

ヨコトリ2014のタイトルにある「忘却」や「451」、展覧会を観て湧き上がってきた言葉や文字をゴム板に彫ってオリジナルスタンプを作ってみよう! できあがったスタンプを布バッグやTシャツに押しつけてオリジナルのヨコトリグッズにするのもステキです。

会場: 横浜美術館 アートギャラリー2

日時: 8/31(日) 11:00~16:00(受付は15:30まで)

参加費: 100円

ヨコハマトリエナーレ2014 公式グッズ

忘却(わす)れずにゲットしよう! 今しか手に入らないヨコトリ2014公式グッズ! 横浜美術館ミュージアムショップおよび新港ピアオフィシャルショップで絶賛販売中!

*価格は全て税込

横浜美術館ミュージアムショップ / 新港ピアオフィシャルショップ

【営業時間】10:00-18:00(8/9、9/13、10/11、11/1は20:00まで)

ヨコハマトリエナーレ2014休場日は休業

トートバッグ(グレー/ピンク)

デザイン: 有山達也

各 1,800円

ヨコトリビジュアルデザイナーの有山達也氏が色から選んだ、他にはないインパクト大のバッグです。

これを持って忘却の海に出る舟に乗りましょう!



チケットフォルダ 380円

フィールドノート 350円

忘却しないようにメモをしたり、逆に忘却したいことを書き留めてみたり……色々使えるノートです。



体中がめぐるごと、
つまらざるごとび精一杯。
怖くて目をふると、
ふんごうのうめくエサが
聴こえた。



江藤真央 <http://maeto.tumblr.com>

森村泰昌AD語る!

7月31日に行われた記者会見



「饒舌にアピールする言葉や大声で話される演説といったものに、私たちは目がいてしまいがちだが、それとは対局にある、黙っていること、沈黙、ささやき、こういう世界

が内に含む豊かさや深さを私たちは忘れてはならない」アーティストリック・ディレクターの森村泰昌氏は本展のキーワード「忘却」について語った。「見えない、見てはならないとされているもの、語り得ぬもの、語ってはならないとされるもの、あるいは、子どもの頃には持っていたのに、大人になると忘れてしまう空想や妄想、こういうものも普段、私たちが見落としがちで、大切な忘れ物ではないだろうか。「ヨコハマトリエンナーレ2014」は、私たちが何処かに置き去りにしてしまったような、しかし、本当はずっと心に持ち続けてほしい、大切な忘れ物を探す旅である。良い芸術とは何なのか、をテーマに問いかけたい。そして、ここに集められた400数点の作品を次世代の子どもたちにもみてもらいたい」ADとしての熱い思いが伝わる会見だった。(梶原)



本当に世界でたった1冊の本 《Moie Nai Ko To Ba (燃えない言葉)》

朗読パフォーマンス、実施しています!

マを象徴する作品である。スターリン政権下に口伝で残されたアナ・アフマトワの詩をはじめとする8本のテキスト、ナチスの爆撃を避けるために作品を疎開させ空っぽになったエルミターージュ美術館の展示室を描いた素描、志賀理江子の写真などが収録されている。6kgの総革装豪華本で、会期後、この世から消えてなくなる。会期中は、ロシア語、ドイツ語、タイ語、ベンガル語、韓国語、日本語で書かれた8つのテキストを、それぞれの言語で朗読するパフォーマンスが、サポーターとゲストにより行われる。(梶原)

注目の作品をちょっと紹介!

ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451度の芸術:世界の中心には忘却の海がある」
会期: 2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) | 主催: 横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)
アーティストリック・ディレクター: 森村泰昌

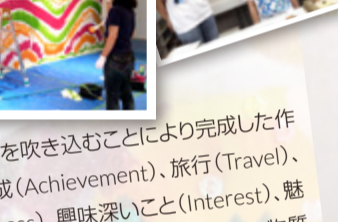
失敗作や眠っていた作品など、芸術作品であれば誰でも捨てられる「忘却の容れ物」 《アート・ビン》マイケル・ランディ

7月31日の内覧会でこの「ゴミ箱」に最初に作品を捨てたのは森村AD。長さ16mの作品を広げながら投棄すると、そこに描かれていた森村AD自身の自画像を瞬時だけ鑑賞することができ、会場に歓声が沸いた。また、8月3日には、マイケル・ランディが自画像を投棄。他にも、参加アーティストのサイモン・スターリング、スペシャルサポーターの茂木健一郎、日比野克彦はサッカーボール作品を蹴り入れるなど、投棄パフォーマンスが続いた。楢昇は、教え子の学生とその場に居合わせた来場者とともに150個位の本箱からなる一つの作品を捨て、本作を異なる方法で楽しませてくれた。思いがけず作品を捨てることを体験できた人達から、「とても嬉しい」「アート・ビンに参加できて、楽しかった」との感想が聞かれた。(梶原)

捨てる直前に自画像を公開するマイケル・ランディ。

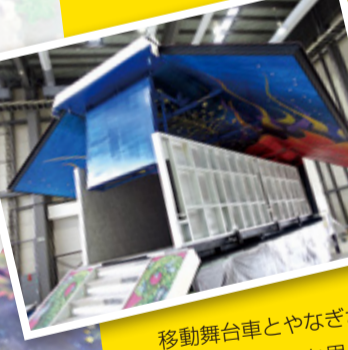
ヨコハマトリエンナーレ2014開幕!

2014年8月1日、私たちが待ちに待ったヨコハマトリエンナーレ2014が、ついに開幕した。「華氏451度の芸術:世界の中心には忘却の海がある」のタイトルのもと、「2つの序章と11の挿話からなる物語」を巡る旅がはじまった。この旅は、どこか頭の片隅に記憶されながらも、いつのまにか忘れ去られてしまった「大切なもの」に目を向けて、その「大切さ」に気づき、改めて考えてみる、いわば、「忘却の旅」である。



ハマトリーツ!も協力して完成したド派手なトレーラー 《演劇公演「日輪の翼」のための移動舞台車》やなぎみわ

新港ピア会場に入っただけで目に飛び込んでくる、大きな移動舞台車。この車は、ヨコハマ2014での展示を経て、やなぎみわ作・演出・美術の演劇「日輪の翼」(原作:中上健次)の全国巡業公演の舞台としての活躍を予定する。「日輪の翼」は、「路地」(被差別部落)から飛び出し、冷凍トレーラーで聖地巡礼の旅を続ける7人の老婆と若者たちを描いたロードノベル。第11話「忘却の海に漂う」というテーマにおいて、まさに「漂流する存在」を象徴する作品である。



8月3日新港ピアで、現代美術作家 やなぎみわさんと台湾の写真家沈昭良さんのアーティスト・トークが行われました。沈昭良さんは、移動舞台車を被写体とした「STAGE」という写真作品を2006年から制作しています。移動舞台車は、台湾でお祭りや冠婚葬祭などで用いられるトラックで、夜の闇を華やかに彩る照明と、歌謡ショーやポールダンスを行うための音響の設備を備えています。この日は、マジックアワーと呼ばれる美しい夕焼け空を背景として、移動舞台車のビビッドな色合いと空の色が調和する瞬間をおさめた「STAGE」シリーズの一部をスライドで拝見することができました。

移動舞台車とやなぎさんとの出会いは、1998年第一回台湾ビエンナーレのオープニングパーティ。「派手な屋台」としか思っていなかったやなぎさんですが、沈さんの写真を見てその役割を理解しました。この作品の装飾部分は、やなぎさんと京都造形芸術大学・東北芸術工科大学・国立台北藝術大学の学生らとの協働で完成しました。私たちハマトリーツ!も、外装の羽の絵の部分の、垂れ幕は東北芸術工科大学の皆さんが描いた「東北画」に、スパンコールで飾りをつけます。最初は戸惑ったピンクのカッティングシートを一枚一枚剥がす作業や垂れ幕に装飾を施す作業のサポートをしました。最初は戸惑ったメンバーも次第に夢中になり、順調に作業ができました。台湾の学生さんとのちょっとした国際交流も、なにより作品の一部に関われたことは何ものにも代えがたい喜びでした。このように多くの人の思いの籠ったこちらの作品。全国の旅に出してしまう前に、ぜひ一度、間近でその美しさを堪能してください。そして、ハマトリーツ!がサポートした作品の一部にも、ぜひご注目ください!(入江)



ギムホンソックの家族が風船に望みや思いを吹き込むことにより完成した作品。彼らを選んだ言葉は、母(Mother)、達成(Achievement)、旅行(Travel)、日常の奇跡(Every wonders)、正義(Rightness)、興味深いこと(Interest)、魅力(Attraction)、愛(Love)で、ギムホンソックは、これらの頭文字をとって、物質という意味をもつ単語「MATERIAL」を作品の副題としている。風船の中の空気は、家族の愛を表し、作品は、家族の肖像(=息の記憶)を象徴している。「8つの息 MATERIAL」の他に「8つの息 7273」、「8つの息 日常の記念碑」がある。この作品の傍らで、サポーターが作品解説を行うと、会場の人々は足を留め、真剣に耳を傾けた。内覧会の際、サポーターによる解説が終わり、会場を去ろうとすると、ギムホンソックが絶妙なタイミングで会場にあらわれ、解説したサポーターと握手を交わし、会場内は、拍手に包まれた。(梶原)

風船に望みや思いを吹き込んだ作品 《8つの息 MATERIAL》 ギムホンソック

会期中はサポーターによる解説を毎日14:00に実施します。

釜芸がおっちゃんたちとヨコハマにやってくる!

かつての日雇い労働者のまち大阪釜ヶ崎。高齢化が進むこのまちの住人をはじめ誰でも一緒に学び合うプロジェクトが「釜ヶ崎芸術大学」である。その拠点コキョームを横浜美術館内に再現する設営が7月19日から21日まで行われ、横浜トリエンナーレサポーター ハマトリーツ!もお手伝いした。設営作業のひとつは作品展示を行う壁の彩色です。壁に何を描くか。主宰の上田假奈代さんから波を描くという構想が示されましたが、どんな大きさの波?形は?と実際に作業する人たちのイメージがかわりません。



そんななか、上田さんが「2日前に亡くなった(釜ヶ崎住民の)Fさんと最後に話した和歌山の海。その波を描きたい」と語り、最初の一笔。これからイメージがふくらみ、どんどんはかどります。展示台も同様に彩色。一人に一つ担当し、何か自分自身のアート作品を制作しているような感覚になりました。天井へ書道作品を貼る作業も並行して行われています。ついつい作品の文字を読んでしまうようで、「哲学的なことが書いてある」、「縦長の半紙にまさかの横書き」など声が聞こえてきます。こちらも楽しそう。その後、四畳半の小上がりが置かれ、さまざまな飾り付けがなされ、みんなの工夫の3日間空間は暖かいものとなりました。(ウエダ)

9月20日、21日には「釜ヶ崎の現役炊出番長が炊出しを実践し、その意味について語る」TAKIDASHI カフェ他、狂言などヨコハマ出張講座「釜ヶ崎芸術大学 in ヨコハマ」が行われます。そこに釜ヶ崎から多くのおっちゃんに来てもらうためのクラウドファンディング(ネットを用いた資金集め)が進行中です。 <https://motion-gallery.net/projects/cocoroom> (8月31日まで)

Café 小倉山(横浜美術館)
横浜美術館のCafé小倉山には、ヨコハマトリエンナーレ2014参加作家の三嶋安住と三嶋りつ恵、親子のユニットによる作品が展示されている。キューバをイメージしたフルール・ハット・モヒートやイギリスをイメージしたフルーティーなど本展に参加した作家の国にちなんだドリンク(451円)、三嶋りつ恵の制作したグラスで楽しめるドリンク「ひかりのみすたまり」(600円)などの販売がある。(梶原)

Cafe Oblivion カフェ・オブリビオン(新港ピア)
「忘却」という名のカフェ・オブリビオンには、焼き菓子セット「菓子451」をはじめ、限定メニューが楽しめる。このカフェは、本展の展示空間構成を手かけた日笠直彦によって設計された。(梶原)



カフェでも